

ともに語る

2023年7月24日発行

今年度も帯広養護学校では、特別支援教育や教育相談、関係機関などに関わる様々な情報発信をしていきます。相談支援部通信「ともに語る」は、年に数回の発行を予定しています。本校のホームページにも掲載いたしますので、ご覧ください。

1 自立活動研修「車椅子mini講座」報告

本校では、日常的に車椅子を使用している児童生徒が、小学部1年生を除いて全校で34名（全体で15%）と、全学年に在籍しています。そのため例年、新学期が始まる前に、新・転入職員を中心に、車椅子の基本操作の演習を行っています。

車椅子の操作（ブレーキがかからない、異音がする等）で疑問を感じたら、複数の教員で状況確認していくことなどを、みんなで共有しました。



動かす前の留意点

- ・骨盤が座奥に収まっているか、ベルト確認
- ・フレームから手足が飛び出していないか
- ・「動きます」と、言葉を掛けてから押す

2 とかねっと～夏季研修会～

7月31日(月)開催のとかねっと夏季研修会へ多数の参加申込をいただき、ありがとうございます。今回は会場を分散して行うため、参加会場へはお間違えのないようお願いいたします。今回は「みんなで語ろう！私たち十勝の特別支援教育を！！」という内容で、分科会形式でテーマに沿って、普段悩んでいることを語ったり、現状の整理とこれからできることを探ったりしながら、具体的な支援や動きについて確認することができる機会になればと思っております。

また、帯広養護学校のホームページから「とかねっと」に関する情報・案内を見ることができます。今後は研修会の報告、各特別支援学校の専門性を生かして特別支援教育に関する情報発信も行っていくしますので、ぜひご覧ください。

<夏季研修会>

- 日 時：2023年7月31日(月) 10:15～12:25 (受付9:45～)
- 分科会と会場：A「不登校」—帯広養護学校
- B「進路指導」—帯広豊学校
- C「障害理解と支援」—帯広養護学校
- D「卒業後の生活」—帯広盲学校

3 気になる子どもの支援

学級内で、または校内で「ちょっと気になる」お子さんはいませんか？運動や認知、感覚や学習面など、多角的な方面から分析し具体的な支援方法について提示していくコーナーです。

パートナー・ティーチャー派遣事業や発達相談の中で「流暢に話せるけど書くことに困難さがある」「視知覚やビジョントレーニングについて知りたい」「不器用な子の支援の仕方は？」など様々な相談を受けることがあります。私自身、専門的なことを学ぶためには以前は大阪や東京の研修会に行くことが多かったのですが、コロナ禍でオンライン研修の機会が格段に増え、自宅にいながら週末に著名な先生方の研修を受けられることが多くなりました。

先日、大阪医科薬科大学 LD センター主催 Web 講演会で、「視機能から読み解く学習のつまずき（講師：大阪医科薬科大学小児高次脳機能研究所 オプトメトリスト奥村智人先生）」の講演を受講しました。奥村先生は何度か十勝にもご講演に来られていて、ご存じの方も多いかと思います。講演は「視力の発達」「視機能の発達と学習について」など視機能や眼球のしくみなどに関わる深い専門性のある内容や、「ディスレクシアと眼球運動について」は動画等も交えて非常に分かりやすい内容でした。今回の内容ですぐに使える便利な支援グッズや YouTube のビジョントレーニングなど、十勝の特別支援教育に携わる先生方にもぜひお伝えしたいと思い、奥村先生に連絡したところ、講演会の資料より掲載可能なものをいただきました。ぜひ夏休みに動画等を見ていただき、2学期からの指導に役立てることができたら幸いです。

<眼球運動について>

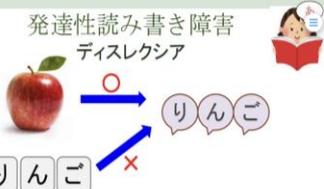
眼球運動の解説動画



<https://youtu.be/426rXf4VM5Y>

<発達性ディスレクシアについて>

発達性読み書き障害
ディスレクシア



発達性ディスレクシアの解説動画



<https://youtu.be/5fsKrOh5ep0>

- ・デコーディング: 頭の中で文字や単語(文字列)を音声に置き換える
- 文字(列)の音韻(列)化 黙読でも必要

<発達性協調運動障害 (DCD) について>

発達性協調運動障害 (DCD)

協調運動:
手と足、右手と左手、目と手など別々に動く身体部分を、運動してまとまったひとつの動きにすること。縄跳びやスキップ、ボールを目で追いながら足で蹴るなどの運動は協調運動です。

発達性協調運動障害:
筋肉や神経、視覚などの感覚にも問題がないにもかかわらず、協調運動が極端に苦手な状態。微細運動(手先の細かい作業)、粗大運動(体全体を使った運動)で苦手ががえる。

DCDの解説動画



<https://youtu.be/J7onJHCZMJU>

私も以前、LDの児童を担当していたときは、教科書の音読では、教科書を本人の見やすい大きさに拡大コピーし、写真と同様のリーディングスリットを色画用紙で自作をしていました。

<視機能の弱さへの支援①> 視力や視機能の問題が疑われるときは、必ず眼科受診をすることが大事です。そのうえで、学校でできる合理的配慮や環境整備、補助具の活用を考えていくとよいです。

拡大読書器



卓上型拡大読書器 NV5-X1(ナイツ)



携帯型拡大読書器ルビー HD 5インチ

日本全国書籍販売サイト <http://yougu.nittento.or.jp/>

斜面台の活用

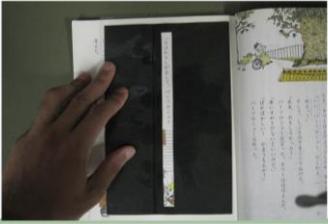
Before



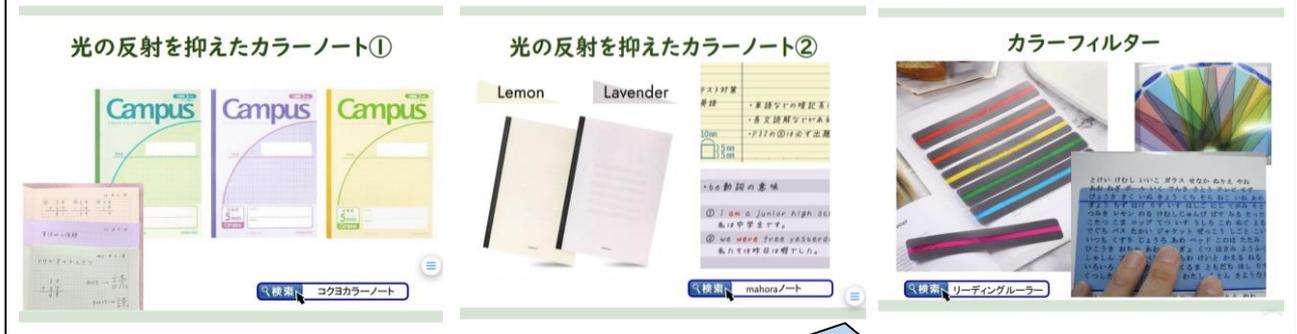
After



リーディングスリット



<視機能の弱さへの支援②>



<音声教材・音声教科書>

音声教材

- 発達障害等により、通常の検定教科書では一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教材
- パソコンやタブレット等の端末を活用して学習する
- 音声教材制作団体
 - 日本障害者リハビリテーション協会: マルチメディアデザイン教科書
 - 東京大学先端科学技術研究センター: Access Reading
 - NPO法人エッジ: 音声教材BEAM
 - 茨城大学: ペンでタッチすると読める音声付教科書
 - 広島大学: 文字・画像付き音声教材
 - 愛媛大学教育学部: 愛媛大学UNLOCK

読みのつまづきには、「アーレンシンドローム」が原因の一つに挙げられます。アーレンシンドロームは、光に関する過敏さがあり、光が非常にまぶしく感じる、本を読むと文字がよく追えない、ずれて見える、目を使うと疲れるなどの症状があります。そのような場合の対処法として、その人に合ったカラーレンズやカラーフィルムをとおして見ることで、目に入る光の量が調整され見やすくなります。

これから増えてくるようです。場所で覚えてしまうかもしれないので、同じレベルからランダムに行うのがよいとのことです。

<YouTube でビジョントレーニング (SeeEase)>



SeeEase



<https://www.youtube.com/channel/UC7hAoN8IC0I3IKYxuAZ9Sg>

(文責 清末)

毎回、特別支援教育や障害者福祉にかかわるおすすめの本などをご紹介します。



『モーツァルトとクジラ』(2005年作品)

アスペルガー症候群の悩みを抱えた男女が、困難を乗り越え愛を育むラブストーリー。「大人の発達障害」という言葉が世間一般的になり、職場や家庭内などでも認知・理解が進んだ世の中となりました。しかし、本人が生きづらさを抱えていることについては変わっていないのではないのでしょうか。障がいを実感し、悩みながらも生きていく恋愛映画ですが、周りのサポートや障がい者自身の自己決定・自己理解についても考えさせられる一作となっています。

(今号は清末、氏原が担当しました)